

(別紙5)

整理番号 2023P-160
補助事業名 2023年度 地域共生を通しての少子高齢化社会の進展に伴う、
人材不足等の改善を目指す活動、調査・研究等 補助事業
補助事業者名 特定非営利活動法人たま咲良の会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

地縁コミュニティの希薄な多摩ニュータウンの中で、従来からの自治会等コミュニティ、福祉や防災等への課題対応型コミュニティ、趣味活動コミュニティ等に加え、「全国から住民が集まっていることに着目した出身地・故郷文化コミュニティ活動」を興し、従来型各コミュニティ間の連携を図りながら新しい複層型コミュニティの構築を目指す。併せて見守り・看取り支援や防災、子育て支援等、喫緊の地域課題に抜本的・横断的に対応するための「課題対応型新コミュニティづくり」も仕掛ける。

(2) 実施内容

①月例故郷イベントの実施

(URL <https://united-communities-of-tama.jimdofree.com/>)

毎月⑥の委員会開催日に合わせて、豊ヶ丘集会所やピオニイホールで研修会を開催し(7月15日、9月23日、11月11日、12月2日、12月16日、1月27日)、委員会に加え②の季節毎イベント時にサードプレイス前において故郷屋台料理の提供等(9月23日、11月11日、12月2日、1月13日、1月27日)を行いました。

研修会では看取り学習会(1回)や高齢フレイル期対応研修会(3回)、さらには記憶をテーマに語る会(2回)等を実施しました。



人生の終わりを考える研修会(左は第1回豊ヶ丘集会所で、右は第2回ピオニイホールで)

左は「記憶テーマの研修会」の案内、右はサードプレイス前屋台でお好み焼きを提供。

②季節毎の多世代参加可能イベントの実施

(URL <https://united-communities-of-tama.jimdofree.com/>)

合衆国コミュニティ多摩には「新しい故郷」になるための活動が必要です。それを目標に、多摩ニュータウン開発で消失しなかった「生残り組の囃子保存会」と連携、季節毎にお囃子・獅子舞を演舞してもらうこととしました（11月11日、1月13日、3月30日実施）。超高齢化タウンで通行人の少ない豊ヶ丘地区ですが、足を止めて見物する人も少しずつ増えてきました。



囃子保存会との協働で、『ゆたか庵』前で演舞と屋台のミニイベントを開催しました。

③取組み案内やNPO活動の広報等を兼ねたミニコミ・広報紙の毎月発行と地域内外での配布 (URL <https://united-communities-of-tama.jimdofree.com/>)

今年度、ほとんど実行できなかったのが、この項目です。広報・普及に関しては、活動目的がほぼ同一である豊ヶ丘自治連絡協議会及び自主防災会に委ねることになりました。

高齢者が大半の当グループにおいて、こうしてホームページを作成したり、毎月印刷物を発行していくことは、想像以上にハードルが高いことであると痛感しています。2024年度は、この項目に関しては体制を強化して取り組まなければなりません。

④活動拠点のサードプレイス化

(URL <https://united-communities-of-tama.jimdofree.com/>)

商店街内空き店舗『ゆたか庵』を、誰でも立ち寄れる場、会話を楽しんだり悩み事を相談できる場、そして委員会を開催する場として設置しました。前期はたまたま会合に参加した看護師に週1回程度の不定期管理をお願いしたが、後期はそれ以上のペース（アルバイト週1回、無償ボランティア週1回程度）で駐在してもらえたことで、高齢者や障がい者の相談等にも対応してもらえました。「庶民の、庶民の手による、庶民のための活動拠点」が確実に出来始めたと感じています。



サードプレイス
『ゆたか庵』



狭いスペースですが、中高年
が集うようになりました。



イジメで不登校になりそう
な小学生、難病の障がい者
等、困りごとや不安を抱えた
方も集います。

⑤まよめのワークショップ開催と年度報告リーフレットの作成と配布

(URL <https://united-communities-of-tama.jimdofree.com/>)

豊ヶ丘地区の集会所にて2月17日及び3月30日の2回にわたって「まよめの勉強会」形式で開催しました。高齢者層が白けないう、形式だけのワークショップスタイルにはこだわらず、「最低1回以上は本音で発言してもらう」スタイルで行いました。また、当該活動を地域住民や周囲の人々により理解してもらえよう、報告書リーフレットも作成し配布しました。高齢者層に読んでもらいやすいよう、A4版ではなくB5版にして、より「読みもの」と感じてもらうよう意識して作成しました。



まよめのワーク
ショップの様子



リーフレットの表紙(左)と
裏表紙(右)

⑥コミュニティ紡ぎ手法としての効果検証と評価

(URL <https://united-communities-of-tama.jimdofree.com/>)

サードプレイスにおいてほぼ月例で委員会を13回開催(4月21日、5月19日、6月17日、7月15日、9月2日、9月23日、11月11日、12月2日、12月16日、1月13日、1月27日、2月17日、3月30日)し、「帆船航海術・Action Oriented Planning」の姿勢でどのように「コミュニティ・ディベロップメント」を進めるか、その効果はどうか等について、絶えず議論を行いました。特筆すべきは、クローズドな会議ではなく、常に住民オープン参加が可能な会として開催したことです。ここでは①の研修会活動で講師となった学識者たちにも加わってもらいました。



サードプレイスで
開催されるオープンな委員会
(左2枚)

踏るところが地味しかないというのなら、「コミュニティ・ディベロップメント」しかないそれは「住民主体型まちづくり活動」と呼ばれます。

何や、自治体や民間企業が活動支援策を推進計画の範囲に照らし合わせが前提で進められることではないかと受け止めておられますが、その内容を見ると、大半が「行政主導型まちづくり活動」(自治体や民間企業が主体)と見えます。これは「行政主導型まちづくり活動」(自治体や民間企業が主体)と見えます。これは「行政主導型まちづくり活動」(自治体や民間企業が主体)と見えます。

「行政主導型まちづくり活動」(自治体や民間企業が主体)と見えます。これは「行政主導型まちづくり活動」(自治体や民間企業が主体)と見えます。

「行政主導型まちづくり活動」(自治体や民間企業が主体)と見えます。これは「行政主導型まちづくり活動」(自治体や民間企業が主体)と見えます。

「行政主導型まちづくり活動」(自治体や民間企業が主体)と見えます。これは「行政主導型まちづくり活動」(自治体や民間企業が主体)と見えます。

コミュニティ・ディベロップメントに関するリーフレットの記述

「型計画」VS「帆船航海術的まちづくり活動」

「型計画」(行政主導型)は、その目的が「型計画」と呼ばれるもので、行政主導で進められることではないかと受け止めておられますが、その内容を見ると、大半が「行政主導型まちづくり活動」(自治体や民間企業が主体)と見えます。

「帆船航海術的まちづくり活動」(住民主体型)は、その目的が「帆船航海術」と呼ばれるもので、住民主体で進められることではないかと受け止めておられますが、その内容を見ると、大半が「住民主体型まちづくり活動」(住民主体が主体)と見えます。

「帆船航海術的まちづくり活動」(住民主体型)は、その目的が「帆船航海術」と呼ばれるもので、住民主体で進められることではないかと受け止めておられますが、その内容を見ると、大半が「住民主体型まちづくり活動」(住民主体が主体)と見えます。

帆船航海術的まちづくり活動に関するリーフレットの記述

2 予想される事業実施効果

自治会さえも結成されていないコミュニティ希薄地域で、1年間だけの活動で大きな成果を求めることには無理があると思われれます。しかし、この活動を通して既に次のような様子を見て取ることはできます。

- ① テーマ別の研修会(高齢フレイル期対応や在宅介護環境の危機対応、さらには災害時における備蓄物資準備等)に関しては、参加者の意識は確実に高まっている。またこれまでの自主防災会の活動では参加しなかった新しい住民層が参

加するようになっている。

- ② 季節イベントでは、「多摩ニュータウン合衆国」に新しいお祭り文化を創るべく、ニュータウン開発で消えることなく残っているお囃子保存活動と手を組み、「子供が少ない高齢者ばかりの街でも季節季節に聞こえるお囃子の音色は絶やさないでおこう」という認識での活動継続に取り組んでいる。その効果は今後徐々に現れてくれると考えている。
- ③ 今年度は人材・資金不足で、広報紙の発行にまで着手できなかったが、高齢者の多い当該地域では次年度は不可欠である。担当人材の手当は既に目処がついたことから、次年度以降はさらに効果が高まると思われる。しかし一方で「研修会やイベントがあるとわかっているにもかかわらず歩いて出かけるのが大変だ」というフレイル期・要支援期高齢者の声も届いている。今後は「在宅訪問インタビュー形式」の広報活動を取り入れていく必要があると考えている。
- ④ サードプレイスの設置に関しては、既にここに集まっている住民たちの間に連帯感や共感が生まれ始めている。学校でいじめられ不登校になっている小学生を連れだした母親が参加しているが、この母親は歩行が不自由なALS難病障害者に肩を貸して自宅まで送って行ったりする。社会的弱者といわれる人々同士が助け合い肩寄せ合って生きる。「庶民の、庶民の手による、庶民のための拠点 ゆたか庵」が機能するところとなっている。このサードプレイス活動を軸として、月例イベントでの研修会、まとめのワークショップやリーフレット配布等が相乗効果をもたらし、参加者のまちづくり意識がどんどん上がっている。今後この勢い、この方向を堅持して進めばさらなる効果が期待できる。
- ⑤ まとめワークショップは、住民たちに働きかける上で、一番効果的なテーマは何かということ把握する上で重要であった。多摩ニュータウンでは「富士噴火降灰リーフレット」、次いで「フレイル期・要介護期・ターミナル期の支援環境」は主要テーマになると確認できた。次年度はこの方向でさらなる学習会等を仕掛けていくことができる。また、リーフレットは、参加者・住民が「たま咲良の会の活動の考え方」を理解してもらうために重要な役割を果たしている。住民の理解が一気に深まることはあり得ないが、少なくとも参加してくれた住民たちの意識・認識には変化があったことだけは確かである。
- ⑥ 委員会は手法の研究・評価の場だけではなく、住民意識啓発の場としても有効であった。当委員会はクローズではなく住民にオープンにして開催した。よって、参加住民から次年度当法人理事に就任するケースも生まれた（まだ理事会・総会前であり決定ではなく予定である）。まちづくりにおいて100%の住民に支持されるような活動はあり得ない。しかし、社会的に弱い立場にいる人々にこそ支持される活動であるべきと考える。当委員会では常にこうした方々から意見や反応を得ながら進めている。これは今後も継続したい。

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

事業報告ホームページ

(URL <https://united-communities-of-tama.jimdofree.com/>)

事業報告リーフレット

(URL <https://united-communities-of-tama.jimdofree.com/>)



リーフレットの表紙と裏表紙

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

作成はしていませんが、当事業ではなく、先行して（令和5年1月）別途助成金を得て、屋台・防災兼用リヤカー等を購入・整備しました。



4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 特定非営利活動法人たま咲良の会
(トクテイヒエイリカツドウホウジンタマサクラノカイ)

住 所： 〒206-0031
東京都多摩市豊ヶ丘4丁目2番地5-109

代 表 者： 理事長 市村富士雄 (イチムラフジオ)

担 当 者 名： 理事長 市村富士雄 (イチムラフジオ)

電 話 番 号： 042-203-2372

F A X： 042-203-2372

E - m a i l： tama.sakura.no.kai@gmail.com

U R L： <https://united-communities-of-tama.jimdofree.com/>